

第14回津山づくりミーティング～保育現場の魅力向上～

問 秘書広報室 ☎ 32-2029

津山市保育協議会主任会の保育士3人が、5月8日に市長と意見交換しました。



喜びを共有できる仕事

参加者 保育士になった動機は「子どもが好き」ということが一番。成長の瞬間を子どもや保護者の皆さんと一緒に喜ぶことができるのが、大きなやりがい。

大切なのは、子どもと向き合う時間。クラス運営に必要なさまざまな書類、子ども一人ひとりの成長の記録など、たくさんの書類作成の時間をいかに減らすかが課題。

市長 誰かに代わることができない仕事もある中で、何より重要なのは人材の充実。

働く人の笑顔を大切に

参加者 今は、さまざまな情報を見ることができ時代。働く環境、やりがいなど、保育士の

魅力がきちんと伝わっていないと感じることもある。事務の負担を減らす工夫や、情報の発信で、現場の魅力を伝えることが必要。

人材を確保し、時間のゆとりを持つことができれば、気持ちよく働くことができる。みんなが笑顔で楽しめる職場が一番。

悩むことがあっても、子どもの成長の瞬間を思い出し、みんなで支え合って、もうひと頑張りできる職場でありたい。

市長 皆さんが働きやすい環境になるよう、協力できることを一緒に考えていきたい。



左から 松尾裕子さん(作陽保育園)、落合幹子さん(久米こども園)、谷口市長、山本真由美さん(総社保育園)

市ホームページに掲載中→



市独自

始まります 多子世帯応援事業

問 子育て推進課 (津山すこやか・こどもセンター内) ☎ 32-2065

多子世帯の経済的負担を軽減し、安心して子育てできるよう、令和5年度から**対象の子ども1人当たり10万円**の多子世帯応援給付金を支給します。

受け取りには、申請が必要で、**7月3日(月)から受け付け**を始めます。

受付開始日は、子どもの誕生日ごとに異なります。

対象 次のすべてに当てはまる人

- 令和5年4月1日以降に、第2子は満2歳まで、第3子以降は満3歳までの誕生日を迎える子どもを養育する親
- 子どもが対象の年齢を迎える年の1月1日～申請日の間、津山市に住所がある人

申請受付期間 対象年齢の子どもの誕生日から6カ月後の月末まで

※令和5年4月～6月に対象年齢になった子どもの給付金の申請は、令和5年12月末まで受け付けます

給付金の額

	満1歳時	満2歳時	満3歳時	合計(最大)
第2子	10万円	10万円	—	20万円
第3子以降	10万円	10万円	10万円	30万円



対象の子どもの数え方

高校卒業年齢(満18歳になった日以後の最初の3月31日まで)以下の最年長の子から数えて、第2子または第3子以降が対象になります

令和5年度に対象になる子ども

第2子 令和3年4月1日～令和5年3月31日生まれ

第3子以降の子 令和2年4月1日～令和5年3月31日生まれ

城東重伝建地区選定

10周年記念 城東屋敷で鉄道ジオラマ作り

問 歴史まちづくり推進室 ☎ 32-7000、✉ machizukuri@city.tsuyama.lg.jp

城東地区は、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けて、今年で10年になります。

10周年を記念し、歴史的な町並みに親しんでもらえるよう、今年4月にリニューアルした作州城東屋敷で、鉄道ジオラマ作りのワークショップを行います。

とき 7月9日(日)・30日(日)午前10時～午後3時

ところ 作州城東屋敷(中之町)

対象 小学4～6年生の子どもと保護者

定員 各日20組(先着順)

参加費 1組500円

申込方法 ①氏名②住所③子どもの学年④電話番号⑤参加希望日を、歴史まちづくり推進室に電話するかEメールで申し込む



※写真はイメージです



作州城東屋敷南スペース

鉄道ジオラマ展示スペースに生まれ変わりました。

開館時間 午前11時～午後7時

休館日 月曜日・木曜日

圖トレビック模型 ☎ 35-2635 または 090-5707-4588 (猪子さん)

まちじゅう博物館構想 進行中

問 歴史まちづくり推進室 ☎ 32-7000

4月26日、津山まちじゅう博物館構想の実現に向け、関係団体などと協力し合って進めていく共同体「津山まちじゅう博物館コンソーシアム」を設立しました。今後、具体的な活動に向けた取り組みが始まります。

まちじゅう博物館構想

まち全体を屋根のない博物館と捉え、市内に点在する歴史、文化、自然、伝統、芸術など津山市が持つ魅力をつなぎ合わせ、新しい魅力を創造していく未来のまちづくり

総会

基本方針、予算などを決定



企画検討会議
構想実現に向けた企画立案、進捗管理など

外部有識者

プロジェクト

具体的な事業の企画立案、進行

意識づくり

- 地域のお宝の調査発掘

施策づくり

- 空き家改修によるにぎわい創出
- 観光客の好みに合わせた場所や体験内容などを紹介する、観光周遊コースづくりとフローチャート制作
- 早稲田大学など高等教育機関との連携
- 宿泊して日本ならではの文化が体験できる城泊 など

人づくり

- 小中学校で行う「つやま郷土学」の拡大方法の検討、若手事業者の育成などの人づくり
- 地域の担い手の発掘や育成 など

土台づくり

- 主要施設の案内用ピクトグラム(図記号)制作
- 城東・城下・城西地区の景観整備 など

市民、民間事業者、市などが参加